

2026年7月14日

株式会社エコグリーンホールディングス

社会福祉法人槇の実会

森林再生と障がい者就労支援を両立する 「林福連携」モデルを本格始動

～病害木を地域資源へ。EGForest と社会福祉法人槇の実会が
持続可能な地域循環を推進～

株式会社エコグリーンホールディングス(東京都中央区、代表取締役:石井光暢)傘下で山林の伐採・造林・維持管理を手掛ける株式会社 EG Forest(千葉県富里市、代表取締役:寺島広高、以下「EGF」)は、社会福祉法人槇の実会(千葉県香取郡多古町、理事長:市原良治、以下「槇の実会」)と連携し、森林再生と障がい者就労支援を両立する『林福連携』プロジェクトを本格始動しました。本プロジェクトでは、森林整備で発生する病害木を薪として商品化し、福祉施設で製造・出荷しています。製品は主に千葉県内キャンプ場で販売されるほか、富里市のふるさと納税返礼品にも採用されています。

EGF では、スギの幹内部が腐朽する病気の溝腐病(みぞぐされびょう)により荒れた森林の再生を目指し、適切な伐採・造林・維持管理を推進しています。その際伐採した病害木について、従前から行っているバイオマス発電への燃料利用に加えて、適切に加工し薪としての利用を進めています。

本プロジェクトは、千葉県内の森林で深刻な問題となっている病害木を「地域資源」として有効活用すると同時に、福祉施設への経済的循環や施設利用者の作業を創出する「林福連携(林業×福祉)」の持続可能なモデルです。

EGF と槇の実会は、本モデルを継続的に発展させるとともに、薪製造にとどまらない森林資源の利活用や地域との連携拡大を進めてまいります。今後も、持続可能な森林づくりと障がい者の就労機会創出を両立するモデルとして、地域社会へのさらなる貢献を目指します。※詳細は別紙参照



▲薪割りの作業



▲槇の実会みなさんと

<お問い合わせ先>

株式会社エコグリーンホールディングス 経営企画部(酒井、徳永、上原)
TEL 03-3537-3240(代表)

<別紙>

■ 槇の実会について

千葉県香取郡多古町を中心に、障がいのある方向けのグループホームや通所施設などを運営しています。同会は「一日一笑(いちにちいっしょう)」をモットーに、利用者と職員が生き生きと活動できる福祉・交流活動を展開しています。

■ 薪製造における両者の役割について

(EGF)

山林から伐採・搬出した、長さ約 30 センチメートルにカットした伐採木を槇の実会の通所施設である「久賀福祉センター」へ運び込みます。

(槇の実会)

- ①槇の実会職員が、運び込まれた木材を安全に配慮しながら専用の機械を使って割って薪にします。
- ②割られた薪を、利用者が針葉樹(3／5 キログラム)、広葉樹(5／7 キログラム)の規格に合わせます。
- ③その後結束バンドで頑丈に固定し、施設内にある専用の倉庫へと運び、出荷まで大切に保管します。

■ 槇の実会における薪製造後の変化

○「外に出る楽しさ」と「社会的意義」

従来は、室内での軽作業が中心となるケースが多く見られましたが、薪製造は「外に出て、自然の木に触れながら身体を動かす作業」です。現場の職員からは「外に出て身体を動かす作業であることから、利用者の皆さんは楽しんで作業に臨んでいます。この作業であれば、自ら進んでやるという利用者の方も多です」との声が上がっています。また同じく職員によると、本プロジェクトで製造された薪が「富里市のふるさと納税返礼品」に選ばれていることや、伐採木を利用して薪を作り、有効活用することが森林再生につながることを理解している利用者もあり、「自分たちの仕事が社会的に認められる、意義のある仕事だ」と理解し、誇りを持って取り組む利用者もいるとのこと。

槇の実会の地域支援部・部長の秋山昭二さんは、今後のさらなる展望について次のように述べています。「今後は、キャンプ場などでの薪の販売などの営業活動の場にも、利用者の皆さんに同行してもらう計画を進めています。一緒に外回りをし、地域社会の方々と直接触れ合うことで、身近にこのような障害を持った人々が暮らしていることへの『地域の理解』を草の根から深めていきたいと考えています。本人たちにとっても、外の世界と新しいつながりができることは非常に重要です。その関わりの中で、本当の意味での人と人とのつながりが生まれていくのだと思います」

EGF と槇の実会は、この「地域経済の循環モデル」をさらに広く発信し、更に強固なものにしていきたいと考えています。



▲薪の保管



▲薪をバンドで結束する